

企業情報 > サステナビリティレポート2005 > トップコミットメント&ハイライト > いつまでも紙を使い続けるために

トップコミットメント&ハイライト  
**ハイライト**



身近な環境問題である、紙。紙をこれからも使い続けていくためにはどうすればよいのか。森林認証制度のモニタリングなどを行っている立場から世界自然保護基金(WWF)ジャパンの前澤氏、紙の製造者という立場から王子製紙の大澤氏、購入のガイドラインを策定している立場からグリーン購入ネットワーク(GPN)の佐藤氏など、日頃から紙に深く関わられているステークホルダーの方々をお招きして話し合った。

**止まらない天然林消失と違法伐採 価格だけで紙を選ぶのは間違い？**

**司会:** 素朴な疑問なのですが、私たちが紙を使うことで熱帯林が消失しているというのは本当でしょうか？

**前澤:** 伐採される場所が日本から離れているのでピンと来ないのですが、輸入されているパルプの出所を追うことが重要です。WWFの独自調査では、現在日本が輸入している紙の18%、パルプの4%が違法伐採された原料からできていると捉えています。

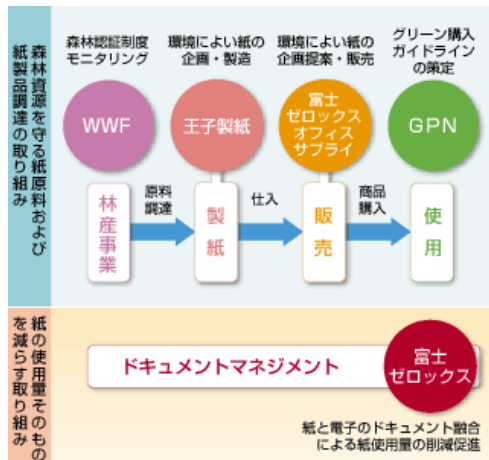
**大澤:** 輸入されているオフィス用紙のかなりの部分は、インドネシアなどで違法伐採された木材が原料であると私たちも見ています。こうした製品を取り締まる社会的な仕組みがないと、違法伐採を止めることは難しいでしょう。

**司会:** それはなぜですか？

**大塚:** 理由は、違法伐採された原料を使った製品は安いからです。管理された天然林や植林などの原材料は費用がかかってしまうため製品も割高になります。今はこうした環境に配慮した製品が、違法な製品との価格競争に巻き込まれ、一生懸命つくっても普及が進みにくいという状況にあります。

**佐藤:** エコラベルなど、情報を正しく伝える仕組みがわかりづらいことも問題です。こうした製品を買うことが森林を消失させることにつながっていることが知られていない、もしくは知っていながら止められない状況があるなら、早く変えていかないといけません。

・参加ステークホルダーの紙問題におけるポジションと役割



## 増え続ける紙の需要 原料の確保はどう図るべきか

**司会:**紙の原料としては、フレッシュパルプと古紙パルプがあると思うのですが、リサイクルを進めるだけでは森林破壊を止めることはできないのでしょうか？

**大澤:**世界的に紙の需要が急速に伸びているという事情があります。当社の予測では、2003年から2015年までの12年間に3億3,900万トンから4億6,000万トンへの増加を見込んでいます。現在、日本は1割近くを消費しているのですが、国内における古紙回収率はほぼ限界の水準まで来ていますし、使われているすべての紙を古紙だけでまかなうことは事実上不可能です。また、近年中国に古紙が大量に輸出され、国内では古紙が手に入りにくい状況にもなっています。

**大堀:**紙の製造にフレッシュパルプが必要なもう一つの大きな理由は、3回～5回リサイクルする過程で、紙の繊維が切れて短くなるため細くなり再生できなくなってしまうからです。

**司会:**古紙だけでは紙が供給できなくなるわけですね。では、フレッシュパルプの調達で配慮すべきことは？

**前澤:**世界の森林破壊をこれ以上進ませないためにはFSCなどの森林認証制度が有効です。これはフレッシュパルプのトレーサビリティ(原料出所場所の追跡可能性)を確保し、持続可能な方法で森林管理を行なっている林業者を応援し、適切に管理された原料でできた製品の購入を進めていくための制度です。

**秋山:**こうした制度を本気で普及させようと思ったら規制などが必要になってくると思います。また、今ちょうど見直しをされているということですが、現行のGPNのガイドラインが、FSC認証紙など認証パルプでできた紙の普及の障壁になっている面がありますよね？

**佐藤:**環境配慮＝古紙配合率に偏ってしまっている部分ですね。古紙の利用量が少なく余剰問題が起きていた10年前はそれでも良かったと思いますし、このガイドラインにより古紙の利用が進んだことは事実です。ただ、そのために別の問題も生まれました。再生紙100%の呪縛とも言えますが、紙の環境配慮といえば木を使わないこと、というところで思考が停止してしまったのです。状況の変化や問題の本質的解決を考えたとき、ガイドラインを改訂する必要があるという結論に至り、現在作業に取り組んでいるところです。

**司会:**ここで一度これまでの議論を簡単にまとめますと(1)紙の製造には、原料としてフレッシュパルプと古紙パルプをバランスよく使うことが大切。(2)調達・購入する際には、パルプ原料の出所を確認することで、違法伐採を防げる。(3)フレッシュパルプ原料の出所を確認できる仕組みとして森林認証制度が有効である。(4)この制度を普及させるためには法整備やガイドラインの改定が必要。ということになりますね。

## 生産者、販売者、購入者、市民 それぞれの責任を果たすために

**司会:**皆さんのこれまでの活動を踏まえ、今後の取り組みについて議論を進めたいと思います。まず、富士ゼロックスオフィスサプライは国内におけるコピー用紙販売の最大手企業として、今後どのような取り組みを進めて行かれますか？

**大堀:**私たちは、中性紙や再生紙など環境に配慮した用紙の企画、開発から、植林事業への出資など長年にわたり幅広く取り組みを進めてきました。今年6月に「植林木パルプ」と「新聞古紙パルプ」を50%ずつ配合したコピー用紙「FRJ」を発売しました。これには王子製紙さん、伊藤忠商事さんとともに、12年前から植林を続けてきたニュージーランドの自社植林地から収穫されたユーカリアのパルプが配合されています。私たちは古紙パルプと出所の確かなフレッシュパルプしか原料として使用しないという方針を掲げてコピー用紙の調達をしています。この活動は私たちだけではできないものではなく、皆さんの協力とお客様の理解が必要です。

**大澤:**ニュージーランドの例もそのひとつですが、私たち王子製紙は、今後の紙の需要増に応えることと、原料トレーサビリティの確保の両立を目指しています。ユーカリなどの海外植林を進め、自社植林地からの原料調達の割合を増やしています。もちろん環境に配慮した管理を行ない、FSCをはじめとする森林認証を取得しています。また、紙の供給者の責任として、今年4月に木材原料の調達方針を策定しました。

**前澤:**WWFでは、違法伐採原料を使っていたインドネシアの製紙会社に働きかけ、原料使用の転換と、保護価値の高い森林を保全させる約束を取り付けました。現在も約束がきちんと守られているかどうかをモニタリングしています。現地の政府やNGOと協働して取り組みを進めると同時に、日本の商社や小売・販売業者にも情報提供し、ビジネス上のリスクや調達方針についてアドバイスするといった活動も行なっています。こうした活動を通じて、森林認証制度への信頼を高めることにつなげていきたいですね。

**佐藤:**私たちGPNが9年前に最初に取り組んだのが情報用紙のガイドライン作りでした。現在、環境に配慮した紙とはどのようなものか徹底的に議論し直し、改訂に取り組んでいます。この改訂をきっかけに社会全体のコンセンサスができるというと思っています。

**秋山:**富士ゼロックスでは、オフィス用紙を購入する立場として2004年12月にグローバルレベルの調達規程を発効しました。法律や規制が順守されていることはもとより、持続可能な森林管理がなされていること、再生パルプは原料古紙の供給元が明らかであることなど、かなり思い切った内容です。ひとつのモデルとして社会に提案し、多くの方々から内容についてのご意見をいただきながら、この調達規程をさらに改善し、その主旨を社会へ普及させていきたいと考えています。



前澤 英士氏  
世界自然保護基金(WWF)  
ジャパン自然保護室次長

1990年よりWWFの活動に参加。長年森林問題に携わる。日本における森林認証制度のエキスパート。



大澤 純二氏  
王子製紙株式会社  
環境経営部 部長

1971年に王子製紙入社。長年パルプの研究に従事。木質バイオマス化学への造詣も深い。



佐藤 博之氏  
グリーン購入ネットワーク  
(GPN) 事務局長

1996年のGPN設立時から活動に参加。現在、紙の調達ガイドラインの改定作業に携わる。



大堀 光喜  
富士ゼロックスオフィス  
サプライ株式会社 参与

1980年入社。1996年より取締役。2004年に取締役を退任後、現職。富士ゼロックスの用紙調達規程の制定に携わる。

**司会:**この調達規程ですが、ステークホルダーの皆様の立場からご覧になっていかがですか？ また、富士ゼロックスへの期待などありましたらお願いします。

**前澤:**森林認証制度を推進する立場であるNGOとしては、原料調達、製品を販売・購入する企業がそのような方針を持ったことはとても励みになります。調達ガイドラインに実効力を持たせるいちばんのポイントは、現地における原料の出所を確実にチェックすることだと思っていますので、そのプロセスでNPOやNGOと積極的にパートナーシップを結んでください。

**佐藤:**ユーザーである購入者の意識を高めることは私たちの役割でもあるのですが、富士ゼロックスさんには『FR』のような商品を出されたことをきっかけに、これまで以上にきちんとPRしていただき、どんな紙を使うことが森林保護につながるのか、一般の方にわかりやすく伝える役目も担ってもらいたいですね。

**大澤:**富士ゼロックスさんとはこれまでいろいろな取り組みを協力して進めてくることができました。王子製紙としてもいろいろな提案に非常に刺激を受けながら、とても良い関係を築いてくることができたのではないかと考えています。今後も共に業界を引っ張っていけるよう私たちも頑張りたいと思っています。

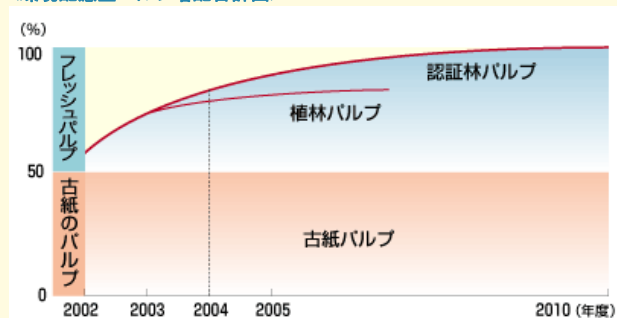
**司会:**富士ゼロックスをはじめ、長年紙と深く関わってこられた皆さんの話を聞いていろいろな気付きがありました。食品を買うときにその生産地を確認するように、紙を買うときにも原料の調達先で森林管理がきちんとされているか確認することで、森林保護は日常でもできるのですね。こうした仕組みがうまく機能して、紙をいつまでも使い続けられるように、キープレーヤーである皆様の、それぞれの立場での今後のご活躍を期待しています。



秋山 裕之  
富士ゼロックス株式会社  
CSR部環境経営管理  
グループ兼CSRグループ  
グループ長  
1980年入社。現在、富士ゼロックスの環境経営を統括。

#### ■ 富士ゼロックスと富士ゼロックスオフィスサプライの取り組み

##### <環境配慮型パルプ増配合計画>



富士ゼロックスオフィスサプライでは、古紙パルプ、植林パルプ、認証林パルプの3種類を環境配慮型パルプとして定義。環境配慮型パルプ増配合計画とは、2010年までに古紙パルプの配合率を50%超に維持しつつ残りを植林木、認証林パルプでまかなう計画。2004年度末現在で83%を達成している。残りの17%は、環境に配慮した天然林や製材廃材などのパルプを使用。

##### <環境・健康・安全に関する用紙調達規程>

富士ゼロックスは、日本および東南アジア、中国、オセアニアのすべての関連各社とともに、森林伐採による資源の枯渇や生態系・先住民の生活への重大な影響などへの配慮を進めるため、各社が販売する用紙や使用する用紙に関して、下記六つの原則を骨子とする「環境・健康・安全に関する用紙調達規程」を制定。この規程はゼロックス・コーポレーション(本社・米国)の規程とあわせ、世界共通。2004年12月1日発効。

1. 法律や規制が遵守されていること
2. 持続可能な森林管理がなされていること
  - 第三者機関により認証を受けた森林であること
  - もしくは、管理がされた状態にある森林であること
3. 再生パルプは原料古紙の供給元が明らかであること
4. 使用する化学物質は安全が確認されていること
5. 紙製造は、無塩素漂白処理で行なっていること
6. 生産工場は環境管理システムを保持していること